

建築主：有限会社ワイオハ  
 設計：株式会社 河原泰建築研究室  
 施工：有限会社 山田建築  
 所在地：野田市宮崎123-16

緑豊かな前庭を街区に開放して、明るい街づくりの拠点に

## ハレアカラ サービス付高齢者住宅



街路側の全景

(撮影/エスエス 走出直道)

車いすはおろか、自転車の通行でさえも危ぶまれる私道に面した街区にある接骨院の建て替えを契機に、近隣住民の協力を得て下水道等環境整備、道路管理等の問題を解決しながら、長い時間をかけて実現した複合施設の計画である。

建物は既存の街並みになじむように、高さをおさえた木造2階建て、延べ819.94㎡。1階にデイサービスセンターと放課後等デイサービスセンター(児童福祉法による)、2階部分にサービス付き高齢者住宅が計画されている。

前面道路から大きく後退させた前庭には、南国を思わせる樹木が植えられ、明るい広場を形成している。

デッキテラス越しに見える室内の活動の様子は、「どなたでもどうぞ!」と招き入れるような雰囲気醸し出し、地域のオアシスのような役割をはたそうとしている。

2階の住宅部分は、4戸の住戸で構成される3つの棟(ボックス)から成り、それぞれを開放的なリビング・ダイニング(共有スペース)でつないでいる。全戸が大きな窓を持つ角部屋、ドアを開けると天窓から光がさしこむ明るい廊下(屋内街路という)、ワンクッションを置いて共有の場へと、巧み

な平面構成になっている。しかし、訪問した秋の日の午後、日差しがたっぷりの快適な空間に、ここで暮らす高齢者の姿が感じられず、日常の暮らしぶりが想像できないことを残念に思った。

サービス付き高齢者住宅は、居住者の「暮らしの場」である。起床から朝の洗面・食事に始まり、入浴・就寝まで、日常の暮らしを営む上で、居住者が安心して暮らせる「住宅」としての設え(新聞・郵便受、履物は..)と配慮、それを実現する「サービス」が必要であろう。

夕暮時、居住者が「我が家」に戻り、リビングに賑わいのある時間に、再度訪問してみたいと思う。

(夏目 幸子)



街路からデイサービスの中を見る



放課後デイサービス内観

(撮影/エスエス 走出直道)